

氏名	鈴木玲子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	人間工学 看護技術教育 看護教育技法 緩和ケア				
学位	修士(リハビリテーション)				
学歴	1999年筑波大学大学院教育研究科(カウンセリング専攻)修了、2015日本大学大学院理工学研究科(医療・福祉工学専攻)満期退学				
経歴	1992東京女子医科大学看護短期大学助手 1998東京女子医科大学看護学部助手 2000埼玉県立大学保健医療福祉学部講師 2005埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授 2007埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授 2009埼玉県立大学保健医療福祉学研究科(前期課程)准教授 2011埼玉県立大学保健医療福祉学部および保健医療福祉学研究科教授 2013埼玉県立大学地域産学連携センター副所長 2015埼玉県立大学保健医療福祉学研究科(後期課程)教授 2016埼玉県立大学学長補佐				
所属学会(役職)	日本看護研究学会(評議員・査読委員)、日本人間工学学会(監事・代議員)、日本人間工学会関東支部(支部委員)、日本ヒューマン・ケア心理学会(理事・学術委員)、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会(理事・編集委員長)、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本保健科学学会、日本看護学会				

### 【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
1	該当なし				
(2)論文					
1	看護専門科目におけるPBL-T・TBL混合型授業プログラムの評価	共著	保健医療福祉科学;6;P10-15	○宮部(森山)明美、鈴木玲子、常盤文枝、山口乃生子、大場良子	2016
2	背部マッサージケアにおけるリラクゼーション効果の検証	共著	保健医療福祉科学;6;P22-27	○広瀬恵里、鈴木玲子	2016
3					
(3)学会発表					
1	PBL・TBL混合型教育プログラムの評価-批判的思考態度と社会人基礎力の視点から-	共著	日本看護学教育学会第26回学術集会、東京・新宿	○森山明美、鈴木玲子、常盤文枝、大場良子、山口乃生子	2016
2	TBL事始め-Team Based Learning教育の体験レッスン-	共同	日本看護学教育学会第26回学術集会、東京・新宿	○鈴木玲子、常盤文枝、山口乃生子、大場良子、齋藤美紀子、齋藤史恵	2016
(4)その他					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	看護師のキャリア開発に資するPBLを活用した教育プログラムの検証(研究代表者)			2014.4~2018.3
2	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究)	学士課程のQODをめざした緩和ケア教育モデルの開発(研究分担者)			2015.4~2017.3
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1)講義					
1	成人看護学 I(概論)	2016.10~2016.12	成人保健、主要な中範囲理論について、学生が主体的に学習できるアクティブ・ラーニング手法を導入した授業を実施し、受講生からも好評な反応が得られた。		
2	看護研究	2016.10~2017.2	研究倫理を含む看護研究の方法について、複数の教員によるオムニバス方式で講義および文献検索演習などを実施した。		
3	基礎看護技術・看護工学	2016.4~2016.7	工学的な視点を取り入れた看護研究を紹介しながら、研究手法への理解を深めるとともに、看護技術の教育方法に関心をもてるように講義した。		

<b>(2) 演習</b>			
1	成人看護学Ⅲ(急性期)	2016.11～2017.1	埼玉県立大学の産学連携活動について講義した。学生の反応は、大学の社会貢献活動への理解の高まりや関心をもつきっかけになっていた。
2	看護学演習(基礎看護技術・看護工学)	2016.10～2017.2	修士論文の研究計画書を作成する準備として、文献クリティーク、研究デザインのディスカッションを取り入れながら講義した。
<b>(3) 実習</b>			
1	成人看護学実習Ⅰ(周手術期実習)	2016.5～2015.6	3年次生を対象に、外科病棟で8週間にわたり、学生の理解度に合わせた指導を実施し、学習到達目標を達成することができた。
2	成人看護学実習Ⅲ(災害看護実習)	2016.9	3年次生を対象に、災害時の応急処置方法について指導し、支援技術の基本を習得させることができた。
3	IPW実習	2016.6～2016.10	医療機関をフィールドに、教員ファシリテータとして学生を指導した。実習施設のファシリテータ達と協力して、学生のIP学習を支援できた。
<b>(4) 論文指導</b>			
1	修士課程	2016.4～2016.12	主指導:4名
<b>(5) その他</b>			
1	埼玉県立大学認定看護師教育課程(緩和ケア)	2016.1	科目「緩和ケア総論」において、対象理解に活用できる中範囲理論「危機理論」「ストレスコーピング」「自己効力感」「不確かさ」について講義を担当した。
<b>4. 社会貢献活動</b>			
<b>(1) 講演会、研修会等の講師</b>			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	外部講師	自治医科大学付属さいたま医療センター看護部	中堅看護師に対する教育指導能力向上に向けたエデュケーションナース研修の運営と当日の担当をした。
2	公開講座	埼玉県立大学	「家族や友人でがん体験者を支えるためのサポート術」をタイトルとした公開講座の企画運営および当日の司会を担当した。
3	市民講座	幸手保健所 埼玉県委託事業	埼玉県の委託事業(の一環として幸手市で開催した市民講座「がんになっても住み慣れた地域で最期まで自分らしく-緩和ケアの効用-」企画運営および司会を担当した。
<b>(2) 国、自治体、財団法人等における委員等</b>			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	埼玉県立常盤高等学校スーパープロフェッショナルハイスクール事業	運営指導委員	2014.4～2019.3
2	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第18回大会	大会長	2016.9
<b>(3) ジャーナリズムでの発言</b>			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
<b>5. 学内運営(委員会委員)</b>			
1	学長補佐(研究開発センター設立事業)		
<b>6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)</b>			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
<b>7. 特許の保有状況</b>			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
<b>8. 特記事項</b>			
1	該当なし		